

第 3293 図

おみなめし科



ペニかのこそう

一名ひかのこそう

*Centranthus ruber DC.*

ヨーロッパ南部原産の多年生草本で、時に觀賞用として栽培される。全体平滑で少し粉白をおび、茎は簇生し高さ30-80cmある。葉は対生し長卵形で巾1.5-4cm、通常全辺で先は尖り、基は下部の葉では細まり短い柄があるが、上部の葉では円く無柄である。晩春から夏にかけて、繖房状に多数の小花を密につける。花は濃紅色で芳香があり、時に淡紅色又は白色の品種もある。花冠は長さ約1cm、花筒は非常に細長く、先は裂片にわかれ、基に長さ5mm許の細長い距がある。雄蕊は1本。果は長楕円形扁平で、先に羽毛状にのびた萼をつける。和名ペニカノコソウはカノコソウに近く深紅花を開くので名付けられた。

第 3294 図

すいかずら科



おおべにうつぎ

*Weigela florida A. DC.*

(=*Diervilla florida Sieb. et Zucc.*)

朝鮮北支に分布し稀に九州に見られる落葉灌木で、時に庭園に栽植されている。枝は無毛又は両側に毛がある。葉は対生し、柄はごく短く、楕円形又は倒卵形で先は急に尖り、縁に鋸歯があり、上面は主脈上に毛があり、下面も主脈上特に中肋上には白毛が密生している。晩春、葉腋に花をつける。萼は5中裂し、無毛又はわずかに毛があり、裂片は5個で披針形である。花冠は紅色で長さ2.5-4cmあり、先は5裂する。5雄蕊、1雌蕊。萼は細長く木質で、熟して2裂する。近縁の種類に比べて萼が基まで裂けず下半部で癒合している特性がある。

第 3295 図

すいかずら科



さんしきうつぎ

*Weigela fujisanensis Nakai*

富士山麓附近に多く産する落葉灌木。若枝は4角で稜に毛がある。葉は対生し、楕円形又は倒卵形で鋭尖頭長さ3-8cm、上面には薄く下面には特に脈上にやや伏した毛が多い。5-6月、枝端又は葉腋に1-3花をつけた花序をだす。花梗はごく短かく、子房は長さ9-12mm、伏した毛がある。萼片は5個、狭線形やや不同で長さ6-10mm、少し毛がある。花冠は長さ約3.5cm、初めから紫紅色か又は初めは淡紅色で後濃くなり、外面にうすく毛がある。ニシキウツギよりは花冠や子房の毛が多く花は初めから紅色である。和名は株により花色に濃淡があるので3色の花をつけるウツギの意味である。

こうぐいすかぐら

*Lonicera ramosissima*

*Franch. et Sav.*

本州、四国のやや高い山地に生ずる落葉小灌木で、枝は密に分岐する。葉は対生し短い柄があり、卵形で先は短くとがり、長さ1-2cm、両面に細毛がある。春、若枝の葉腋から長さ1cm位の細い柄をだし、頂に2花がならんで開く。苞は長楕円形で長さ5mm以下、小苞は左右癒合し倒心形で長さ1.5mm、花と共に無毛である。花は下へ向って開き、花冠は淡黄色で長さ約1.5cm、円柱状の筒部の基には一側に膨みがあり、先はひろがって短い5裂片にわかれる。内に5雄蕊と1雌蕊がある。漿果は2個ならび、下半は癒着して横にマユ形となり、紅熟する。

第 3296 図

すいかずら科



いぼたひょうたんぼく

*Lonicera demissa Rehder*

富士山、八ヶ岳、赤石山脈などに産する落葉灌木で、非常に細かく枝を分つ。若枝は暗紫色をおび細毛があり、基は数対の灰色の小鱗片でつつまれている。葉は短い柄があり対生し、倒卵形乃至長楕円形で両端短く尖り、小形で長さ1.5-3.5cm、両面に軟い毛が密生している。6月、葉腋から1cm内外の花梗をだし、頂に2花がならんで咲く。苞は線形、小苞は卵形で小さく毛がある。花冠は淡黄色で長さ約1cm、唇形で筒部は短く、一側に円い距があり、上唇は先が浅く4裂し、下唇は細そく下へたれる。雄蕊は5本、花柱は雄蕊より短く、花糸の下部と共に毛がある。漿果は2個接してならび、扁球形で径6mm許、紅熟する。和名は葉がイボタノキに似たヒョウタンボクの意味である。

第 3297 図

すいかずら科



第 3298 図

ちしまひょうたんぼく

*Lonicera Chamissoi Bunge*

本州中部の高山又は北地に生ずる落葉小灌木で、各部全く無毛である。葉は対生し、ごく短い0.5-2mmの柄があり、卵形又は楕円形で先は円いか又は短く尖り、長さ2-4cm巾1.5-2.5cm、下面は脈が凸出し白っぽい。6-7月、葉腋から長さ4-12mmの花梗を出し、先に子房が半ば癒合した2花をつける。苞及び小苞は卵形で長さ1mm以下。花冠は濃紅色、小形で長さ8-10mm、筒部は短く下側はふくらみ、上唇は上部4裂し、下唇は線状長楕円形で下に垂れる。花柱や花糸には毛がある。漿果は癒合して、紅色に熟す。和名は初め千島で見出されたので名付けられた。

すいかずら科

